

新しい教育動向との対応で見た小学校建築の問題点と課題 - 大阪市における公立小学校を事例として -

建築計画分野 中尾敏也

1. 研究背景及び目的

平成14年度から全国の公立小中学校において新教育課程が実施された。今回の改訂により、数年前から総合的な学習の時間を初めとした体験的・具体的活動をより重視した教育が求められるようになってきている。そのため、クラスや学年の枠を超えた授業や体を動かす活動が増え、従来の普通教室だけでは活動に制限を受けるといった問題が生じ始めた。また、地域に開かれた施設としての役割を担うため、小学校において体育施設開放や生涯学習、また大阪市では放課後の児童の受け皿としていきいき活動が行われている。このような事情を受け、小学校では以前にも増して多目的な活動に対応できる教室が必要とされるようになってきている。

大阪市は他の都市と比べ小学校の校地面積が十分に確保されていない中、市街化の過程の中で児童数増加に対応するため、そのつど校舎の増改築による学校施設整備がされてきた。そのため、全体的なブロックプランが整備されていない学校が増加してきた。

そこで本研究では大阪市の公立小学校を事例として新しい教育動向の活動内容を把握し、現在の小学校に必要とされる教室を明らかにし、その上で新しい教育動向に対応した小学校整備のあり方を考えることを目的とする。

2. 調査概要

総合的な学習、生涯学習、いきいき活動といった新しい教育動向の活動内容を把握するため、また度重なる増築により乱れたブロックプランの問題点を明らかにするため、囲み配置型の校舎配置をし、校舎が老朽化し中期的にみて5年から10年先に校舎の建替えが必要と思われる学校16校を選出し、アンケート調査を行なった。アンケートを集計した後、さらに具体的な活動実態、施設実態を把握するために、アンケート調査校の中から活動内容や教室利用に対し特に疑問が感じられた8校を選出し、ヒアリング調査を行なった。

3. 小学校施設の現況

大阪市は昭和30年代に市街化の過程の中で児童数の増加や新しい教育動向に対応するため、そのつど校舎の増改築によって学校施設整備がなされてきた。狭い敷地に運動場を確保するため体育館やプールを校舎に取り込んだ複合棟や4階建ての校舎が増築された。また、小刻みな増築に対応しやすい囲み配置をした学校も増加し、

ブロックプランが乱れ移動動線が長くなるなどの問題が生じ始めた。ヒアリング調査でも、「校舎が離れていて普通教室から特別教室への移動が困難。4階にある音楽室は移動が不便なため利用が少ない。上階が渡り廊下でつながれていないためエレベーターを設置しても上階で隣の校舎へ移動ができない。」といった問題点が挙がった。

近年になり、少子化により児童数が減少し各学校に空き教室が出始め、増築よりも既存校舎の教室転用による改築工事が進められるようになった。大阪市では昭和40年以前の校舎は建替えをし、それ以降の校舎は耐震補強をして長く残す方針を採っている。教室転用は主に普通教室2教室を多目的室や特別教室へと改装している。

4. 新しい教育動向の活動内容

(1) 総合的な学習

総合的な学習は「横断的・総合的な課題、生徒の興味・関心に基づく課題、地域や学校の特色などに応じた課題など、各学校に応じた学習活動を行う。」ことが内容となり、平成12年度から研究的に取り組み、平成14年から本格開始されている。

活動教室は普通教室、多目的室、図書室、パソコン室が主に使われ、体育館、屋外、特別教室も使われていた。また、第2音楽室や生活科がある学校はそれらの教室も使っていた。ゲストティーチャーを呼ぶときなど学年単位での活動、地図作りなどのグループでの作業、調べたことを発表する活動など、普通教室では対応できない活動がされているため、特に多目的室での活動が多くみられた。総合学習を行なうための施設要求としては、多目的室のように机がなくグループ活動で作業ができる教室や発表ができる広いスペースを複数希望している学校が多かった。

(2) 生涯学習

大阪市の生涯学習ルーム事業は、学校開放事業の一環として小学校の諸施設を活用し、地域住民の自主的な文化・交流活動の場を提供するとともに、身近な講座・講習会等の開催を通じて生涯学習機会の充実をはかることを目的として、平成元年度に開設された。平成13年度にはすでに9割以上の小学校で開設されている。

活動場所は会議室や生涯学習ルーム、多目的室での活動が多くみられた。多目的室は他の教室と異なり、空調やシンク、折りたたみ机などの設備も整っている学校が

多く、生涯学習にとっても使い勝手がいいため特に多く利用されていた。また「健康体操」「ダンス」といった体を動かす活動は体育館、「コーラス」は音楽室、「陶芸」は図工室と、利用しやすい教室をその活動場所として選ぶ傾向もみられた。活動時間については授業時間中に活動をしている学校もあった。生涯学習についての施設上の問題点は、地域開放できる教室が不足しているという意見が多くの学校で挙がり、教室不足のために生涯学習の数を増やせない学校もみられた。また、多目的室で生涯学習を行なっている学校は生涯学習の備品が授業の支障になっているという意見が多かった。

(3) いきいき活動

大阪市では市立小学校において、平成4年から小学校で「児童いきいき放課後事業(愛称:いきいき活動)」を平日の放課後や土曜日、夏季休業日などの長期休業日に実施している。参加の対象となる児童は、事業実施校区に居住し参加を希望する学齢児童で、当該校区に居住する学齢児童なら誰もが参加できる。児童が友達同士でふれあう場が少ないために、異なる学年での遊びやスポーツなどの各種集団活動を通して主体的な生活態度を養うことなどを目的としている。平成13年度には大阪市の市立小学校全校で実施されるようになった。

いきいき活動の登録人数は児童数のおよそ半数で、常時活動をしているのは、登録者数の3分の1程度であった。登録に関して無料であることや、利用時期や帰宅時間の自由、親の送り迎えが必要でないなど、保護者側にとって都合のよい理由があるため、登録の数は増加している。活動場所としては主にいきいき活動教室と運動場で活動している。以前はいきいき活動教室は1教室で足りていたが、登録者数が急増しているため実態としては1教室ではまかないきれなくなった。そのため、多くの学校で多目的室や体育館といった他の教室も利用している。特に多目的室は雨の日の利用や、空調があるため夏場にもよく利用され、いきいき活動で有効に活用している学校が多かった。いきいき活動教室に関しては、2階や3階にある学校が多いため、運動場へ移動がしにくく、また、管理面でも場所に不便を感じている学校が多かった。

表1 小学校の多目的室を中心とした教室利用実態

	箕	橋	加美	田川	春日出	東中浜	勝山	神津
多目的室								
音楽室								
第2音楽室								
図書室								
図工室								
理科室								
家庭科室								
生活科室								
パソコン室								
会議室(生涯学習)								
体育館								
いきいき活動教室								
いきいき活動教室								
クラス数(H14)	16+1	12+1	18+2	12+1	12+2	15+1	9+1	16+1
多目的室の階数	2	1	2	1	2	3	2	2
空き教室数(会議、児童会、いきいき活動室)	11	4	7	2	3	5	5	8
生涯学習の活動数	7	3	2	5	5	3	3	1
いきいき常時活動人数	45	90	100	40	40	60	30	65

「生涯学習」「いきいき活動」「総合学習」
塗りつぶしているマークは利用頻度が高いことを示す

5. 各小学校における施設上の問題点

「表1」は各学校別に生涯学習、いきいき活動、総合的な学習が行われる室を一覧に示したもので、各活動と室の対応と、各活動相互の影響を把握できる。多目的室の利用により8校の傾向ごとに分類したものが以下のからグループである。

多目的室は生涯学習でもいきいき活動でも利用

・巽小学校

生涯学習は夜間(19:00以降)に行なっており、管理上会議室がある校舎には入れないため、東門から近い特別教室棟にある多目的室で行なっている。いきいき活動は、空き教室が多いためいきいき活動教室が2教室あるが、夏は空調がついている多目的室で活動をしている。そのため、多目的室を使うときは生涯学習と調整して使っている。多目的室は生涯学習やいきいき活動など地域開放でよく使われているが、2階にあるため障害のある人が行きにくいという声も挙がっている。総合学習は学年単位で活動することが多いが、多目的室には生涯学習の備品が多く置かれており、1学年で活動するには狭い。そのため、総合学習では体育館での活動が多くなっている。

・橘小学校

いきいき活動は活動人数が多いため、放課後、いきいき活動教室と多目的室と体育館を使用している。体育館は夜間体育施設開放で使われており、体育館や放課後の多目的室は生涯学習では使用できない。また、会議室は1/2教室分と狭く、多目的室は1階にあり地域開放しやすいということもあり、生涯学習は多目的室で授業時間中と夜間に行なっている。授業時間中に生涯学習をするときは、授業で多目的室は使えず、授業は図書室や体育館で調整している。また、多目的室の1/4はアコーディオンドアで区切られ、生涯学習の備品置場となっており、生涯学習は授業での多目的室の使用に支障となっている。

多目的室はいきいき活動でも利用

・加美小学校

いきいき活動人数は多いが、放課後体育館は体育施設開放で使っており、いきいき活動では使えない。そのため、いきいき活動はいきいき活動教室と多目的室で活動している。多目的室は2階にあるため、管理上いきいき活動で使うときには2階3階のシャッターを閉めている。空き教室は多いが2階以上にあるため管理上地域開放はしずらく、また、いきいき活動で多目的室を使っているため、放課後生涯学習で使える教室がない。そのため、生涯学習は教員がいる昼間(15:30~17:00)に第2音楽室(コーラス)と図書室(書道)で行なっている。18クラスあるため多目的室と同じ広さをした第2音楽室があるが、3階にあるため放課後は地域開放しづらい。また、総合学習は普通教室での活動が多いため、授業では第2音楽室は低学年の音楽と特別活動でしか使われていない。

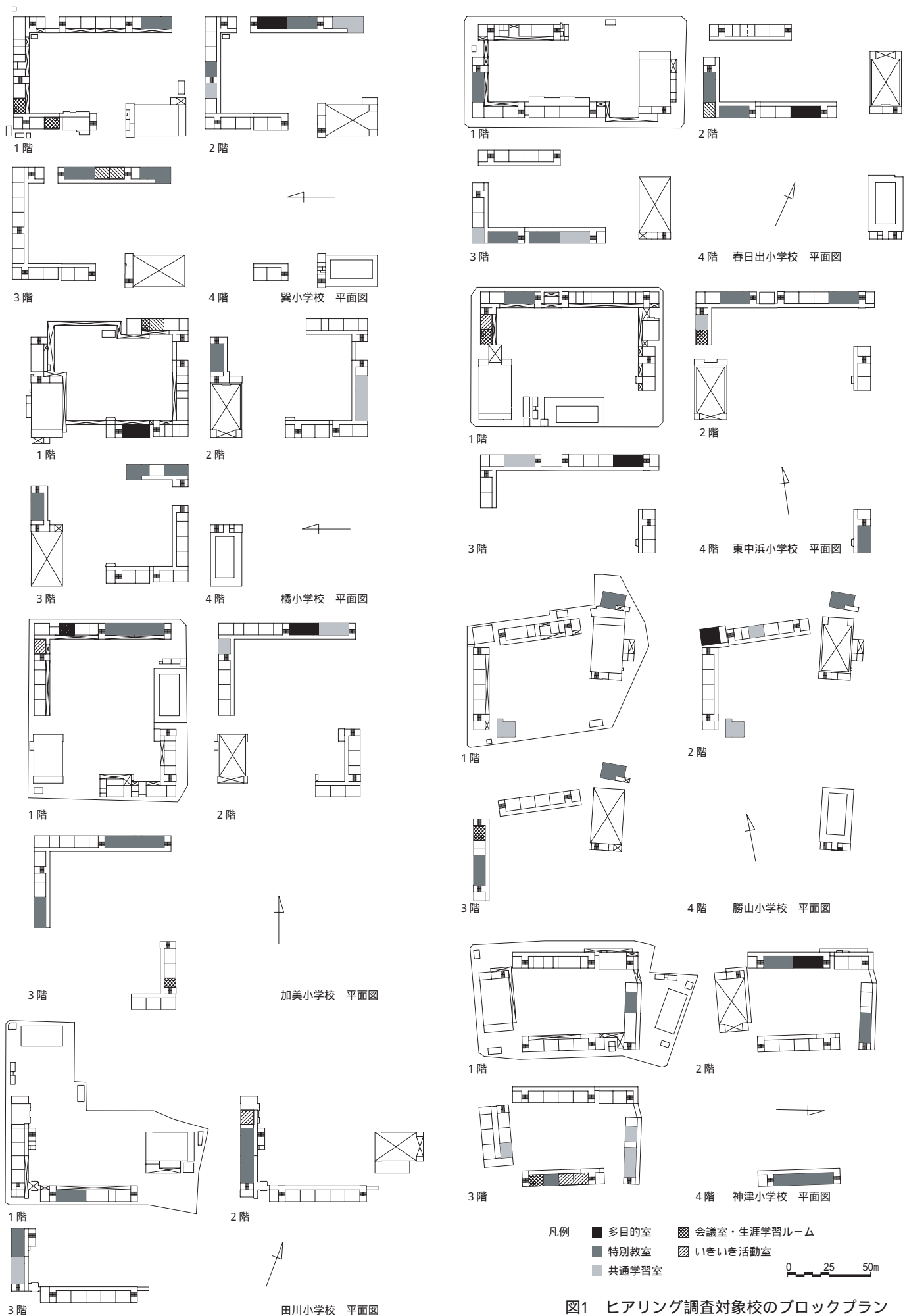


図1 ヒアリング調査対象校のブロックプラン

多目的室は生涯学習でも利用

・田川小学校

教室数が足りず図工室を多目的室と兼用している。総合学習では学年単位でのグループ活動が多いため図工室兼多目的室をよく使うが、それだけでは作業できる広いスペースが不足している。いきいき活動は活動人数が少ないため、いきいき活動室以外で活動はしていない。生涯学習は会議室がないため、1階にある図工室兼多目的室を使っている。「生花」は授業時間中(10:00~11:30)に行っており、図工室兼多目的室を授業に優先させるために家庭科室で行っている。

・春日出小学校

以前18クラスあった頃に整備された第2音楽室がある。総合学習では学年単位で活動することが多く、2クラス全員が入りきる第2音楽室や体育館をよく使っている。また、いきいき活動は雨の日にはいきいき活動教室以外に第2音楽室、体育館、図工室を使っている。そのため、授業やいきいき活動で多目的室はあまり使われない。会議室がないため、多目的室が会議室のように地域開放に使われている。そのため、生涯学習は全て多目的室で行われ、多くの生涯学習の備品が置かれている。生涯学習は授業時間中にも行われているが、授業で多目的室を使うときは授業を優先させている。

多目的室は生涯学習でもいきいき活動でも使わない

・東中浜小学校

校舎は年度を追って継ぎ足して建てられたため特別教室の場所は散らばっている。特に4階の音楽室への移動は下まで降りて上がらないといけなため、音楽室の利用は少ない。多目的室は旧第2音楽室を使っているためステージがついているがあまり利用されていない。総合学習は基本的にクラス単位で活動しており、多目的室へは移動が面倒なため、普通教室で活動できるときは普通教室で活動している。いきいき活動ではいきいき活動教室の近くに体育館があり、雨の日は体育館を利用しているため、多目的室は使っていない。生涯学習は会議室の外にも生涯学習ルームがあるため、生涯学習で多目的室は使わない。そのため、授業時間中(14:00~16:00)にも生涯学習ルームで生涯学習を行っている。多目的室は3階にあり場所が不便なため、総合学習でも地域開放でもあまり利用されていない。

・勝山小学校

多目的室は2階にあり管理上地域開放しにくく、生涯学習は生涯学習ルームで活動をしている。いきいき活動はいきいき活動教室がないが、活動人数が少なく、図書館をいきいき活動教室としても利用している。そのため多目的室は生涯学習やいきいき活動では利用しておらず、授業で有効に使えている。9クラスとクラス数が少ないため、総合学習では多目的室は調整して使えている。図

書館にはいきいき活動の備品が置かれており、図書館の利用に支障を来している。空き教室があるため2階の教室をいきいき活動室にしようという話があるが、管理上階段にシャッターをつけて上階に上がれないようにしなければならない。

・神津小学校

空き教室が多くPTA会議室や2つのいきいき活動教室などがある。生涯学習やいきいき活動等の地域で使われる教室が確保されているため、多目的室はほとんど地域の利用はない。そのため、多目的室は総合学習以外にも国語や社会や生活科など授業で有効に使用できている。多目的室の場所は、総合学習の調べ学習で多目的室とパソコン室と図書室を同時に使う活動をしており、各教室が離れていて不便もある。しかし、理科室の隣にあるため、学年単位の活動で多目的室だけでは狭いときは理科室も同時に使っている。

6. まとめ

本来、多目的室は授業を優先として整備された教室ではあるが、授業での利用に制約を受けている様子が見られた。一つは多目的室での生涯学習の活動が授業時間と重複するとき、生涯学習の活動を優先する場合があること。もう一つは多目的室に生涯学習やいきいき活動の備品が置かれ、授業で使用するとき支障となることである。また、授業以外での活動同士でも利用時間が重複し、多目的室を使いたくても使えない活動もあるということがわかった。そのため、多くの学校で多目的室のような地域開放ができる広いスペースの教室を複数必要としている。

大阪市では、児童数の減少により生じた空き教室の有効利用として、普通教室2教室間の間仕切りを取り払い、多目的室への整備をしている。このように、空き教室を必要な教室へと転用する方法は地域利用や新しい授業形態にとって今後の小学校整備の指針となる。

一方、大阪市は狭い敷地に度重なる増築の結果、囲み配置校舎や4階建ての校舎が多くなり、ブロックプランの乱れや長い移動動線、屋外空間不足といった問題が生じている。総合学習が始まったことにより複数の特別教室を同時に使う活動もあり、益々特別教室群としてのまとまりが必要となった。また、地域開放がしやすいように開放ゾーンをまとめる必要性も高くなった。これらの問題は教室転用だけでは解決できない問題であり、建替え時の全体配置も計画する必要がある。現状では校舎の建替えは校舎の建設年度により決まるが、今後は複数の校舎を同時に建替えてコンパクトにまとめたプランにすることが必要とされる。

今後の整備方針として、地域に開かれた学校づくりに向け、校舎建替えと教室転用を併用した整備による改修が一つの示唆になる。